

社会科学学習指導案

令和6年2月21日(水) 第5校時
Ⅱ年 2組 35名
授業者 青柳 忠臣

1 単元名 地理的分野「地域の在り方」

2 単元の目標

- ・自分たちの生活する地域について、地域の実態や課題解決のための取組と、課題を解決するために考察、構想したことをまとめる手法について理解する。
- ・自分たちの生活する地域について、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察・構想し、表現する。
- ・自分たちの生活する地域について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分たちの生活する地域について、地域の実態や課題解決のための取組と、課題を解決するために考察・構想したことをまとめる手法について理解している。	・自分たちの生活する地域について、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察・構想し、表現している。	自分たちの生活する地域について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。

4 指導計画（5時間扱い）

- 1 単元を貫く学習課題を設定し、学習計画を立てよう・・・1時間
- 2 情報収集しながら課題を追究しよう・・・1時間
- 3 宮みらいプロジェクト会議の準備会を行おう・・・(本時) 1時間
- 4 さらに追究をしよう・・・1時間
- 5 宮みらいプロジェクト会議を行おう・・・1時間

5 本時の指導

(1) 題目 宮みらいプロジェクト会議の準備会を行おう

(2) 本時のねらい

本単元は、学習指導要領(平成29年告示)では地理的分野の「2 内容」「(4)地域の在り方」に記されており、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地域の在り方を地域的特色や地域の課題と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。

第2学年の生徒は1学年時から継続して地理的分野の学習において、単元を貫く学習課題に対して個人や班ごとに学習計画を作成して追究したり、個人や班ごとに単元を貫く学習課題を設定して追究したりしてきた。地理的分野のまとめとして位置付けられる本単元においては、個人で設定した単元を貫く学習課題に対して、個人で追究する形で学習を進める。

生徒の学習の進め方は、「単元の学習シート」を活用しながら進める。「単元の学習シート」は、本単元における5時間の学習の記録を1枚のシートに表せる形にし、生徒にとって学習の見通しをもたせるとともに、授業者にとって生徒の思考の変容を見取ることができることをねらいとした。本校で使用している学習支援クラウド(ロイロノート)を活用し、単元の学習シートを授業者が添削したり、生徒間で共有したりしながら生徒の学びの道筋を可視化できるよう工夫した。

個人での追究において、自分の追究の内容や方法について見つめ直す機会を設けることが重要で

あると考えている。本単元においても、適宜協働で学ぶ機会を意図的に組み込むことで、生徒の学びがより深まりのあるものになることを目指したい。

本単元の第1時において、宇都宮市の住みやすさについて考えた意見をもとに分類した視点(福祉、観光、交通、生活、歴史・文化、環境、商業などの面)の一つに注目させる。その注目した面について宇都宮市の20年後の在り方を考察させ、そこから単元を貫く学習課題を設定させる。

第2時に追究した内容をもとに、本時では級友と協働で学習することで、自分と異なる面で追究した内容を、自分が追究した内容と関連付けることの重要性に気付かせることをねらいとする。本時で気付いたことを次時以降の追究に生かし、より多面的・多角的に考察した上で、単元の学習課題に迫らせたいと考えている。

(3) 具体目標

自分が追究している内容において、他者が追究している内容と関連付けて考えることで、自分の追究の広がりや深まりの可能性を実感し、より良い宇都宮市の姿について、多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力、判断力、表現力等)

(4) 指導方針

事前に前時までの追究を把握し、異なる面に注目した同士の班が形成されるよう意図的に班を編成する。発表で最低限伝える内容は、第2時に単元の学習シートにまとめておくことで、本時での発表がある程度統一されたものとなるようにする。発表時に授業者は、各班の状況を把握した上で机間指導を行い、質問の視点などについて適宜助言を行う。

また、共有ノートを活用し、班内における案の関連性について結びつける作業を効率化・可視化することで、どのような関連性があるのかについてより時間をかけて考察できるよう工夫した。その上で、「自分は観光の面で考えていたが、交通の面も合わせて考えることで、より発展するようになる考えた」などという空間的相互依存作用に着目した意見や、「生活の面で考えていたけれど、歴史・文化の面も合わせて考えると、宇都宮市の特徴が新たに分かった」などという地域に着目した意見を引き出したいと考えている。

(5) 評価計画

- ア 観点—思考・判断・表現
- イ 方法—学習活動における生徒の発言の様子及び単元の学習シートに記入された作品分析による
- ウ 具体的評価基準等

おおむね満足	「十分満足」の一例	努力を要する生徒への支援
宇都宮市の20年後のより良い姿について、自分の考察した案に加え、級友が考察した面と関連付けている。	「おおむね満足」できる状況に加えて、宇都宮市の特色をもとに社会的な見方・考え方に着目して考察し、表現している。(例)宇都宮市は東京に近く、日光や鬼怒川などの観光地とも近い場所にあるので、商業の発展が期待できると考えている。さらに交通の面からも見ていくと、東京や県内の観光地に1時間程度で移動できるので、駅や大きな道路に商業施設を造ったり、移転させたりするともっと良くなるのではないかと考えた。	自分の考察した案と、級友が考察した案を比較させ、気付いたことを述べさせる。

(6) 社会科プロジェクト研究テーマとの関連

社会科プロジェクトでは、研究テーマを「社会を見つめ、社会と関わる力を育成する社会科授業」と位置づけて共同的に研究を進めている。本時における「社会を見つめ」とは、宇都宮市の20年後のより良い姿について、複数の視点から捉え、宇都宮市の特色を根拠に述べていること、と考えた。

また、複数の視点から考察する際に、自分たちと社会の20年後をイメージしながら宇都宮市のより良い姿について持続可能性に着目することは、「社会と関わる」姿と考えている。

また、単元の学習シートにおける記述から、社会的な見方・考え方を働かせ多面的・多角的に考察している姿とその変容を見取することも実践のねらいとしている。

(7) 展開

社会科プロジェクト研究テーマとの関連

学習活動・内容	資料・準備	指導上の留意点
1. 本時の活動について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 宮みらいプロジェクト会議の準備会を行おう </div>	・スクリーン	・前時までの学習内容を確認し、本時の学習活動について見通しをもたせる。
2. 班ごとに自分の追究内容について発表し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 班編制・・・異なる面に注目した同士になるよう班を意図的に編成する。 発表・・・1人3分（質疑応答を含む） </div>	・タブレット ・単元の学習シート ・モニター	・発表者は共有ノートに貼り付けた作成物をもとに発表させる。 ・自分がどの面に注目し、どのような案を考察したのかについて根拠（地理的事象）を明確にしながら発表するよう確認する。 ・聞き役の子供には、発表者にとって今後の追究のプラスになるような助言や質問をするよう確認する。
3. 発表し合った案の関連性について考察し、全体で共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ① 関連のありそうなものを線で結ぶ ② どのような関連があるのかを記入したテキストを貼り付ける </div>	・タブレット（共有ノート） ・モニター ・「未来都市うつのみや」	・机間指導や共有ノート上を通して把握した社会的な見方・考え方に着目した意見を意図的に取り上げ、全体で共有することで、宇都宮市のより良い姿を考察するために、多面的に考察する必要性に気付かせる。 ・宇都宮市が発行している都市構想に関する資料を配付し、複数の面を関連させながら街づくりを構想していることを確認する。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 手だて：関連付け 働かせたい社会的な見方・考え方：「空間的相互依存作用」、「地域」 </div>		
4. 自分の追究について見直し、次時以降の追究について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 【予想される生徒の考え】 ・（農業の面で追究している生徒）地産地消による外食産業との関連を見い出せた。高齢者が従事できれば福祉の充実にもつながるのか可能性を追求したい。 ・（環境の面で追究している生徒）企業や交通との関連性を考えることを学んだ。LRTの環境への影響を調べたい。 ・（商業の面で追究している生徒）交通の面から商業施設の発展につなげて、街の財政を豊かにし、最終的に福祉を充実させて宇都宮市を豊かにするという目標を学んだ。 </div>	・タブレット ・単元の学習シート	・活動3で共有した点（宇都宮市の特色、社会的な見方・考え方を働かせた意見）を踏まえて記述している生徒を意図的に指名し、全体で共有する。
5. 本時の段階での、単元を貫く学習課題に対する答えを記述する。	・単元の学習シート	・次時は本時で考えたことをもとに、追究の時間になることを伝える。

(8) 共同研究テーマとの関連について

社会科が考える、「学習の個性化」を充実することで期待する生徒の姿

- ・学習課題に対して、適切な情報を収集し、必要な情報を選択・判断して活用する姿
- ・これまでに学んだことを基に、新たな疑問や問いを立てることで解決を目指そうとする姿
- ・社会的事象を基に、課題を見出し、社会的な見方・考え方を働かせながら学習計画を立案し、解決を目指す姿

本時における、「学習の個性化」を充実することで期待する生徒の姿

- A これまでに学んだことを基に、新たな疑問や問いを立てることで解決を目指そうとする姿
- B 社会的事象を基に、課題を見出し、社会的な見方・考え方を働かせながら学習計画を立案し、解決を目指す姿

学習の個性化を促す手だて

- ① 意図的な班編成による学習形態・・・Aの姿
異なる面で追究している生徒で班を編成することで、自分や班員同士の視点の関連性に気付くことで、自分の追究の広がりや深まりにつなげさせたい。
- ② 視点の関連付けをさせること・・・Bの姿
自分と班員、班員同士の関連性を考えさせることで、宇都宮市の地域的特色を複合的に捉えること（「地域」という社会的な見方・考え方を働かせている生徒の姿）に気付かせたり、自分の考えた宇都宮市の姿が違う視点との相乗効果によってより良い姿になり得ること（「空間的相互依存作用」という社会的な見方・考え方を働かせている生徒の姿）に気付かせたりしたい。
- ③ 単元の学習シートの活用・・・Aの姿
本時の活動後に、単元を貫く学習課題の修正（確認）や、追究する視点の追加などを記述させることで、追究の深まりや広がりをもたせたい。また、既習の単元の学習シートから、今までの積み重ねた学習内容や視点を振り返る場面を設けることで、新たな疑問や問いを立て解決を目指す姿を表出させたい。